



西山富三郎議員

大山恵みの里づくり計画

重く受けとめ実現したい

問 大山恵みの里づくりプロジェクト推進会議から計画が提出された。

(1) 赤川哲夫委員長は巻頭に「社会の一隅を照らしながら、次代に引き継いでいただくよう念願するものです」と書いている。どう受け止めているか。
(2) 計画の基本姿勢に品質革新・資源提携・公民協働の三つの柱がある。公民協働の認識をどう広めるか。

答 (山口町長)

(1) 赤川哲夫委員長の一文は、人や自然に思いやりを持ちながら、みんながその理念を共有し、一つの目標に向かって行動する心がけにより素晴らしい町ができると言っていると受け止めている。
一年間のプロジェクト会議を通じて強く感じられたのではないかと思っ

集中改革プランの公表

18年度中に公表する

ている。最高責任者として重責を全うされた赤川委員長の意志を重く受け止め、計画の実現を目指したい。
(2) 公民の「公」は「官」より広い意味であり、商工会や観光協会、福祉協会あるいはNPO法人などの公共性や公益性を発揮する組織団体を含むものを考えている。

町づくりは、地域住民や地場企業などと密接に関わりがある中間組織ともいべき組織が果たす役割は益々重要になると考えており適切な表現だと思っている。
本計画を周知するため概要版を作成し全戸配布したりフォーラムの開催も予定している。

問 国は「地方公共団体における行政改革のための新たな指針」に基づき、平成17年度から平成21年度までの「集中改革プランの公表」を求めている。これからの地方公共団体は、地域のさまざまな力を結集して「新しい公共空間」を形成するための戦略本部となり、行政自らが担う役割を重点化していることが求められている。どう取り組んでいるか。

答 (山口町長)

鳥取県は全国唯一集中改革プランの策定時期、内容を公表していない。大山町では、18年度中の公表に向け「大山町行政改革審議会」の場で審議をしている。
委員定数は15名以内であるが現在は11人を委嘱している。
※集中改革プラン：地方公共団体の行政改革の具体的な取り組み

オオサンショウウオの観察施設

関係機関と協議中

問 町内には特別天然記念物であるオオサンショウウオが生息している。

時折、用水路などで保護されることがある。生息地は岐阜県以西の一部に限られており、中国山地は生息地として有名である。
わが町にはこのように素晴らしい自然環境が残っていることを知り、郷土の自然に親しみや愛着を持ち、守っていく意識や態度を子どもたちから育てることが重要である。

方策の一つとして子どもたちがオオサンショウウオを身近に観察できる機会や施設を設けてはどうか。
答 (山田教育長)
オオサンショウウオの本物を見たことのない子どもたちが多くいる。所轄する官庁の許可を経て、観察施設ができないかということを現在文化庁や県教育委員会文化課と協議を重ねている。全国の小学校でも公民館でオオサンショウウオを飼育している学校は例を見ないようである。わが町に生息するオオサンショウウオを子どもたちに見て学んで欲しいと思っている。



オオサンショウウオは1mを超える世界最大の両生類です。



諸遊壊司議員

温水プールの早期実現を

各方面から調査・検討中

問 誰しも家族や他人に迷惑をかけることなく、元気で長生きをしたいと思うのは人間の道理でないかと思う。

人口は昨年約1万9千人で10年前より約1千7百人減った。高齢化率は10年前の24・7%から昨年は31・3%になり、10年後は36・7%になると予測されている。また国民健康保険から見た総医療費では10年前が25億9



水中ウォーキングは効果バツグンです。

答 (山口町長) 高齢者の介護予防として、千万円、昨年は35億6千円、10年前で約10億円の増。10年後の平成27年の見込みは49億円と莫大な金額が推測される。

自分の健康は自分で作り自分で守る。治療医療費よりも予防医療費は格段に安くつく。合併による利点を大いに利用し、温水プールの早期実現を提案する。

現在の健康は自分で作り自分で守る。治療医療費よりも予防医療費は格段に安くつく。合併による利点を大いに利用し、温水プールの早期実現を提案する。

また現在、温水プール建設に対してどういう事業や財政支援があるのかという調査や、既存の施設との連携・運営方法等について各方面から調査検討をしている。

現在の水中ウォーキングの効果は大変大きいと認識している。

現在米子市内のスイミングスクールに委託しているが、今までに延べ千人の方々に参加してもらい大変好評である。

答 (山口町長) 各種イベントを行うことは、実施する地域が活性化することを目的としている。その実施効果はその都度検証し、最大の成果を引き出す必要がある。合併後各種イベントの統廃合については検討作業を行っているが、行

問 新大山町になってイベントが非常に多くなった。これは、旧町で実施されていたイベントが、そのまま新町に引き継がれているからである。年間のイベント回数は25回実施されている。それに伴う経費は相当の額である。町は、その効果について把握しているか。今後内容を検討し統一してはどうか。一例を上げれば、5月に実施している7回のイベントを連休に集中してはどうか。



敦賀亀義議員

各種イベントの効率化を

検討を進めている

政のみでは調整が困難である。性格や目的、事業効果を総合的に勘案し統合できるもの、同時開催による相乗り効果が期待できるものに検討を加え推進したい。



雨の中で頑張った昨年のみくりやポートフェスティバルのごだいごレース



吉原美智恵議員

ボランティア サポートセンターを

現在の体制を強化する

問 2007年から「団塊の世代」と言われる人たちの大量退職が始まる。11月の新聞の世論調査によると、約75%の人が60歳を過ぎても働きたいと答え、その中でボランティア活動に参加したいという人は61%に上がっている。大山町でも、この世代がボランティア活動の新

たな担い手として期待できる。現在、名和地区において、独居老人が246名、110の老夫婦世帯という状況の中で民生委員は25名である。果たして、きめ細かい支援はできているのか。

答 (山口町長)

60歳過ぎても働いて収入を得たい人もいる。シルバー人材センターに加え、多種多様なニーズに応えるのも選択肢の一つであろう。現在、社会福祉協議会が「大山町ボランティアセンター」を設立しており、福祉分野を中心に活動している。既存のボランティアセンターを団塊の世代の方々の社会参加の支援も対応できる組織に体制を強化できるものと考えている。

ボランティアの皆さんに登録してもらい、今の福祉の分野に限らず、もっと幅を広げた社会福祉協議会のボランティアセンターになっていけば、相応の部分解決できるのではないかと考えている。



社会福祉協議会の中にある大山町ボランティアセンターのスタッフ



秋田美喜雄議員

保育所懇談会の目的は 保育行政に反映させる

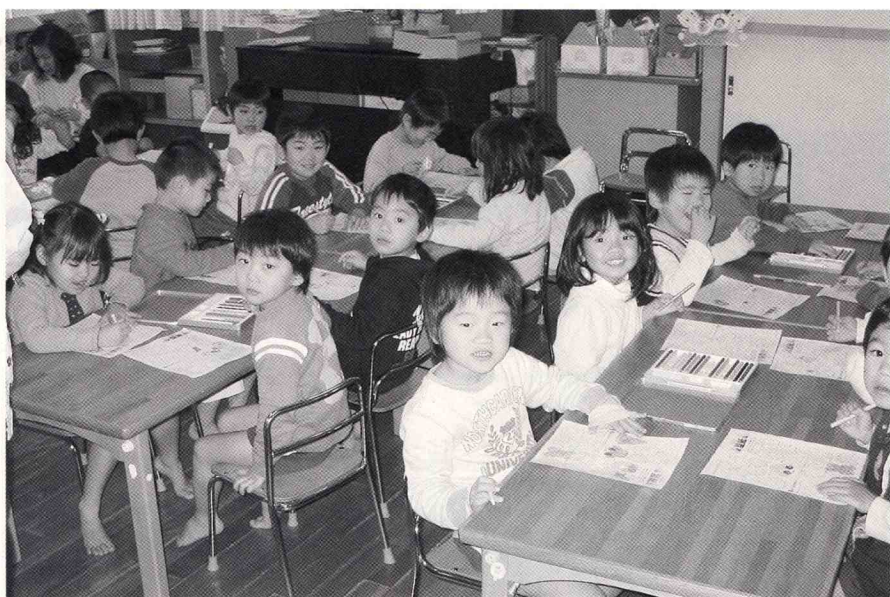
問 町内すべての保育所で教育懇談会が行われた。保護者からいろいろな意見や考えを聞いて意見集約がされたようである。その中で、上中山保育所

の保護者が不安、不快感を持たれたと聞いている。この懇談会の目的と意図は。

答 (山田教育長)

本年度から幼児教育課が保育所を所轄することになった。保護者と幅広く意見交換を行うことがぜひとも必要だと思い、保育所単位で意見、考えを聞かせてもらっている。また、事務局側の考えも提案した。

施設の老朽化、入所園児数の格差、保育室の不足等、いろいろな課題や現状を説明した。その中で説明不足等、反省すべきことは反省している。多様な意見を参考にし、今後いっそう幼児教育に力を入れていく。



保育所によっては園児数にバラつきがある。



岩井美保子議員

いじめ問題への対応は

人間関係育成を重視

問 全国で教育（いじめ問題）に関する課題が問題化している。

(1) 町ではどのような対応を行っているか。

(2) 大山町での教育の問題点は何か。

(3) 町内の小中学校で「いじめ」があるか。

(4) 子どもの生命を守るためには、保護者が本気で問題に立ち向かうことが不可欠。教育長の考えは。

答 (山田教育長)

(1) 各小中学校で児童生徒へのアンケートや個別相談などを行い、「いじめ」の現状把握に努めている。

11月に文部科学大臣から出されたメッセージを、学級担任が読み上げ、補足を加えすべての子どもに意味が分かるよう伝え、他、県教育委員会からのメッセージ、教育相談窓口のパンフレットを保

護者に配布し、町教育委員会としても、児童生徒がいつでも相談できる体制をとり、プリントを配付し周知している。

(2) 子どもたちは成長する過程で、それぞれの地域社会、学校生活で仲間と出会い、人間関係を磨い

境の中で、人間関係をどう磨いていくかという課題を意識している。

教員の側も、児童生徒が少数数だと指導力を発揮できるが、多人数クラスには対応しきれない者も中にはあり、今年度設置した教育研究所を中心

に、教職員の指導力向上のための研修を重ねている。

しかし、学校生活のさまざまな人間関係の中で、摩擦やトラブルは当然あり、「いじめ」は常に起こり得ると考えている。

大切なのは、子どもが一人苦しんでいる場合に、周囲がいち早くそれをキヤッチし解決していくことであり、そうした経験を積むことで、子どもが人間関係を広げる力になる

と考える取り組み。 (4) 親の子育て観は大切なことと考えている。「子育てセミナー」などを通じて、子育ての苦しさだけでなく、楽しさや大切さを紹介していきたい。

また、「読み聞かせボランティア」や高齢者との交流など、地域のマンパワーも借りながら、子育てを支援していきたい。

空き校舎の活用は

将来的にはまちづくりの拠点に

問 名和小学校の統合で、旧光徳・庄内の小学校舎及び敷地はどのように活用されるか。

あるいは教育委員会事務局が移転したらどうかなどの提案をいただいた。

1月の教育委員会で結論を出し、町長に提案する予定にしている。

広報だいせん7月号で、町民にアイデアを募集した結果はどうだったか。

教育研究所や町史編さん室、文化財整理室に一部を活用する方向で検討している。

答 (山田教育長)

校舎の有効活用について6名から提案があった。公民館や図書館、歴史資料館、文化団体の活動拠点、体力づくりの拠点、

町づくりの拠点、社会教育施設、保育所などへの利用も考慮し、有効活用を図っていきたい。



町内ではいじめの報告はないという。



森田増範議員

問 情報通信事業の運用が4月から始まる。ケーブルテレビの申込加入率も全世帯の80%を超え、町民の期待が高い。

自主放送チャンネルの活用に、まずは行政の各分野の取り組み、福祉・保健・医療・介護や教育・産業振興・生活環境情報等、今どんなことをしているのか。町民参加の映像も提供しつつ、公民協働への啓発・住民参加の町づくりへと、目的を持った取り組みが必要ではないか。

自主放送チャンネルの利活用を

示す状況にないが、同じ認識

ト、これから始まる「大山恵みの里づくり」特集などコスト意識を持ち、住民参加の創意工夫で、自主放送チャンネルが積極的に活用されるよう期待する。

認識を持っている。テレビという身近な情報手段を活用することは最も効果的な方法と考える。その運営については、提案を常に意識しながら取り組む。

答 (山口町長)

現在、情報通信の基盤整備にむけて全力を傾けている。ご指摘の取り組みや検討課題について、具体的な参画手段や働きかけの方法を示す状況にないが、同じ



放送が楽しい自主放送チャンネル。議会で継ぎもあります。

「大山恵みの里づくり計画」具現化へ

本年度から、準備を進める

問 プロジェクト推進会議から「大山恵みの里づくり計画」が策定、提出され、具現化する段階に入った。その内容は、多分野・多項目に分かれており、施策内容別に事業推進スケジュールと推進主体が示されている。

重要と考える二つの事項について
(1) 「住民主導のまちづくり」が最終的なテーマとなっている。そのためには、初期から「本物・質の高さ」を追求する組織づくり、啓発プログラムをつくっての事業展開、



計画書と全戸配布された計画の概要版

そして、行政と住民（組織）の一体感をつくり、協働への第一歩としてはどうか。

(2) 多分野に事業推進施策が分かれており、それらを統括・連携し、プロジェクトとして事業の継続性、効果的具現化を推進する母体、または部署と専門的人材が必要でないか。

答 (山口町長)

(1) 最重要課題は、計画実現に必要な組織づくりと考えている。物産振興のための組織の立ち上げ、観光振興では、現在の観

光協会再編が検討されている。また、3年間の限られた期間に組織づくりと目標達成のための施策に取組む早急な対応が必要であり、外部シンクタンク等の支援も受け、質の高い組織づくりを目標したい。本年度から準備を進める。

計画の概要版の全戸配布やフォーラム開催等、意識高揚を図り、公民協働による取組を進めたい。(2) 行政内部でも、組織体制づくりが必要と認識しており、進めたい。



川島正寿議員

基幹産業農業への取り組み

国の方針を踏まえ対応

問 長年の農産物価格低迷で、現在の農業は高齢化、後継者減少となつている。農地の多面的機能は全国で3兆円の価値があるとされ、県で600億円、町で60億円に相当する。

19年度から米施策は、集落営農・認定農業者等しか優遇制度に乗れない。また、オーストラリアとの自由貿易が実現すれば米の関税47%がゼロとなり、環境保全にも貢献している農業・農家はさらに衰退する。

10年先を見据えた農業施策が必要と考える。
(1) 農業を営むには優れた農地が一番である。生ゴミ・畜産の排せ物等の組み合わせにより、循環型の土作りを町主導で計画し実施する考えは。
(2) 荒廃農地減少策として、チップロータリー(フレ

答 (山口町長)

(1) 国は農業の自然循環機能の維持増進を図るため環境三法を施行した。地域において耕畜連携で堆肥を活用し、農業の基本となる土作りを行っていくことは、農産物の品質向上、安全な食糧生産、付加価値の高い農産物づくりを促進し「大山ブランド」向上へつなぐと思う。

これからの環境、農業を考える時、循環システムの構築は重要と考えている。
(2) 現段階では、町が購入し貸与することは考えていない。農家等で希望があれば、意欲のある農業者等を支援する「チャレ

ームモア)を農家に貸与する考えは。
(3) 諸制度に乗れない農家への町独自の支援策は。

「大山恵みの里づくり計画」を推進し、農産物の高付加価値販売を促すことも支援策の一つと考えるが、基幹産業といえ

ども、すべてに手厚くしていくことは財政的に困難。
国の方針を踏まえ、制度を活用しながら、農業が安定的に経営できるような政策的に誘導する必要があると考える。
町独自の支援策を行う場合は、財政的な面も考慮しながら、支援対象の適否を判断したい。



荒れ地を耕すチップロータリー

登記もれ

問 過去に取得した町道等で登記もれがあった。固定資産税の過徴収になつていないか。

答 (山口町長)

過去の用地取得の際に、所有権移転がされないままの物件が存在していることは認識しており、解決に向け努力している。これらの土地は非課税扱いになっており、過徴収はないと認識している。

障害者自立支援法

問 10月1日から施行になった。重度障害者ほど負担増となり、サービスをあきらめざるを得ない人も出ている。

支援法の取り組み、周知は充分であったか。

答 (山口町長)

市町村の裁量で行う聴覚障害者へのコミュニケーション支援、障害者への相談支援、外出支援等の事業は、事業の形態、利用者負担等について、西部9市町村で共通の基準で実施する。

聞く耳ボックス

問 合併して約2年、町内各所に設置している町長あての「聞く耳ボックス」には多くの意見が寄せられていると思うが、公表はできないか。

答 (山口町長)

内容を公表することで、多くの町民に理解していただける効果もあり、今後一定の基準を作り検討する。

周知の方法は障害者団体への説明会、サービス利用者へ直接案内したり「広報だいせん」でも説明している。

非常に短期間で行なわれた制度改正で、町も戸惑い苦労している。充分な周知説明が行き届いていない面もあり、現状課題を把握し対応していきたい。



岡田 聡議員

新型交付税導入の対策は

制度見直しの声を強く上げたい

問 国は07年度から新型交付税の導入を検討している。県の試算によると、面積が広く人口の少ない自治体ほど減額の割合が大きく、わが大山町は影

響額(減額)の割合が0・81%と県下でも5番目に高く、金額では町村の中で一番高いようである。これでは税収の少ない自治体の財源を保障する

という交付税本来の目的に反する。07年度の予算編成に大きな影響を受けると考えるが、(1)次年度以降の財政運営をどう対処していくのか。(2)自主財源の確保や歳入を増やすことが重要であるが、その対策は。

答 (山口町長)

交付税の算定方法の簡素化や透明化を目的として、新型交付税導入の検討がなされている。県の第一次試算結果では、大山町は現行の交付額から5090万円の減額となり、鳥取市、倉吉市について県下で3番目に影響の大きい市町村であるという結果が出されている。

新型交付税制度は、人口10に対し面積1という基準、さらに宅地1に対し山林0・24と、都市部

山林の多い大山町には新型交付税は不利

を優遇する形になっている。都市と地方の格差をますます拡大させることにもつながり、地方交付税の本旨でもある「地域間の財源調整機能」「地方財源の保障制度」の根幹を揺るがす制度改正であり、国に対して制度見直しの声を強く上げていきたい。

(1)将来にわたり持続可能な財政運営基盤を目指して、事業の根底に立ち返った厳しい見直しや「選択と集中」による限りある財源の効果的・効率的な財政運営を基本に予算編成を行っていく。(2)基金取り崩しの最少化に努めるとともに、合併支援制度を有効に活用した新たな基金造成に努め、将来にわたり健全で安定的な財政基盤の確立を目指す。

さらに未収金・滞納金の徴収対策についても法的手段などを用い、より一層力を入れていく。

障害者自立支援法の影響は

負担の減免など要望したい

問 障害者の自立を目指すことを打ち出し、さらにサービス利用料の原則1割負担を求めた「障害者自立支援法」が10月から施行された。

不安が多い。負担増に耐えられず、施設利用を断念するなどの影響も出ている。(1)障害者程度区分の認定はスムーズに、かつ、実態に合った認定が望まれるが。(2)急激な負担増に対して県、あるいは町独自の補助策は考えられないか。また、実態に即した問題点あるいは改善点を把握し、県を通じ提言する考えはないか。

答 (山口町長)

(1)県実施の「調査員研修会」修了者のみが訪問聞き取り調査が可能となっており、保健師が中心となって研修受講し、訪問調査にあたった。(2)財政的な理由で支援費制度が破綻してのことであり、現時点で町独自の補助制度は困難である。県に対して負担の減免や付加給付制度の実施について要望をしていきたい。

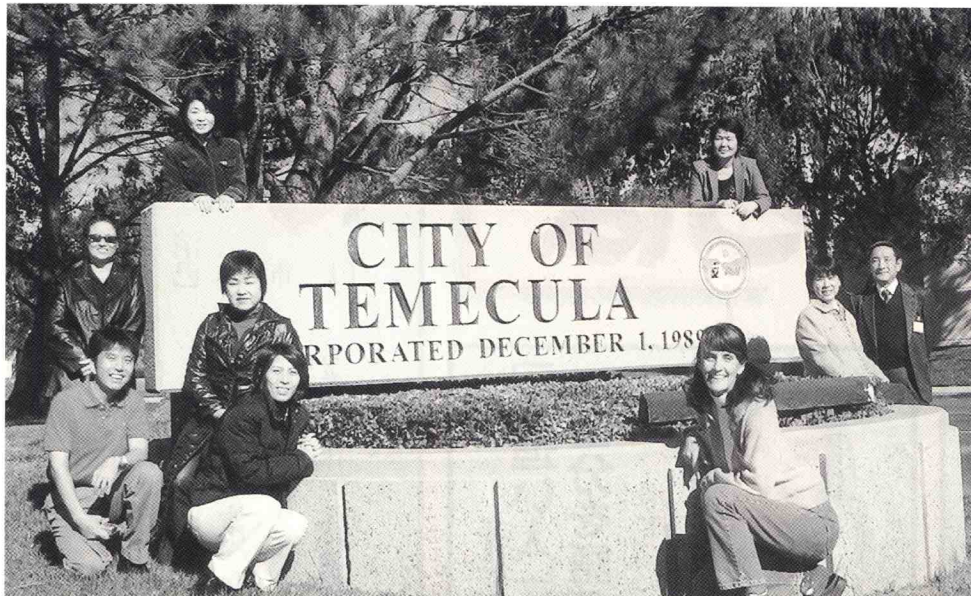
自立支援法の目的は、障害の種類によってばらだつたサービスの整理統合、自立に向けた就労支援、そして、利用者にも応分の負担を求めるなどである。良くなる面もあるが、問題点も多く、当事者に

テメキュラ市を訪問して

訪問団長 遠藤 幸子

11月29日から12月7日まで、米国カリフォルニア州テメキュラ市での視察・交流を行った。
 テメキュラ市とは、平成6年5月に旧中山町と

姉妹都市縁組を結び、ほぼ毎年相互に訪問し、ホームステイをしながら、文化交流を続けて来た。今回は「お茶」をテーマに、日本文化の披露と普



テメキュラ市役所の前で（一番後ろの右側が筆者）



及活動が目的であった。

私は、米国の訪問も初めて、ホームステイも初めてなので少々不安を感じながらの渡米であった。弁護士のリバーグさんのお宅に、5泊お世話になったが、ホストファミリーの生活を体験させていただくのが目的であるので、特別扱いではなく、自然体で米国の日常生活を味わえた6日間であった。

■訪問・視察

市役所訪問・オールドタウン・歴史博物館・日本庭園見学・マルガリータミドルスクール視察。今年の3月には中学生が日本を訪問予定。子どもミュージアムは、おもちゃで遊ぶだけでなく、ゲーム感覚で体験できるコーナーとか、古い家庭用品を使って学習するコーナーがあった。子どもも大人も楽しめる施設。

大型ショッピングセンターでは、一商品の量の多さに驚き、価格の安さにはうらやましい限り。

シニアセンター訪問で、日本文化の紹介。30名ほどの参加者に抹茶の点前

テーブルを囲んで抹茶のお点前



かぶと 兜をかぶってポーズ

を披露。全員に抹茶を味わってもらった。折り紙では兜の作り方を指導。ビンテージヒルズ小学校訪問。図書室には壁が無く、広いフロアで静かに本を読んでいるのに

は感心。警察署見学、警察犬の訓練、パトカーの中の説明等、サービスの良いのには驚いた。

クリスマスパレード参加、緋に赤いたすきの茶つみ娘(?)スタイル。パレード中、沿道から大歓迎を受けた。テメキュラ市主催のパーティーも開いていただいた。市長、国際交流協会の皆さん、沢山の人の歓迎には今までの交流の深さを感じたひとときであった。

最終日、ホストファミリー宅で、日本から持参した、ちらし寿司、お好み焼き等を作って食べながら、日本の話に花が咲いた。

今回の目的であったお茶や折り紙での交流は、時間的には十分でなかったが、参加の人たちは楽しんで下さった。ホストファミリーの人たち、今回お世話になったたくさんの人たちとの交流が今後も続くことを願いながら、テメキュラ市を後にした。

みんなの 声 ひろば

子ども会との 農業体験交流



高橋 清己
(上 市)

老人クラブ会員と子ども会の親子で、畑5アールの「そば作り体験」から始まった農業体験交流は、8年目となり、現在休耕田をお借りして「もち米作り体験」に挑戦しています。

昔ながらの方法で種まきから収穫まで、いつも大騒ぎで、実りの秋には、子どもたちは刈り取り、老人クラブ会員はハデ掛けなど、珍しい手作業を体験します。収穫祭は、杵と臼で、子供と息をあ

わせて餅つき。米寿の祝いとしても贈呈し、大にぎわいです。仲良しになった子どもたちにカブトムシやクワガタムシを採ってあげると「ありがとう」と大きな返事が返ってくるよう

になりました。「育てる」ことで子どもたちが生命の尊さを体感してくれたことを大変うれしく思っています。

あとがき

だいせん議会だより第4号が県下町村議会だよりコンクールで優秀賞に選ばれました。全町村紙一重の差であつたそうです。

最優秀賞 若桜町
優秀賞 大山町
日南町
住 作 琴浦町

現在本誌は、議案審議・委員会活動・一般質問・町民登場を柱にしています。

これからは「特集」や「協議会報告」も視野に入りたいと思います。

4月からケーブルテレビの放映が始まり、定例議会のナマ放送も茶の間で見られます。御指導、ご協力をお願いいたします。

(富)

「夢追い人」 自分を語る



清水 環
(陣 構)

海が見えて山が見える……こんな暮らしが夢でした。

「夢は語るものではない」と人は言うかも知れないが、私は人に夢を語りながら実はそれは自分に語り聞かせているのだと思います。その夢に対

する思い込みの度合いが強さを増し、そのうち協力者が現われ、徐々に夢の実現に近づいていく。人は物やお金で動くのではなく心で動くものだと信じています。

Passion 情熱が自分を突き動かし、人の心をも動かすのではないかと感じます。夢は子どもだけが見るのではなく、大人の私たちも熱い心を胸に追いかけて生きていきましょ。最後まであきらめないで追いかけた者にだけ与えられるもの。今年も夢に向かつてgo!

安心して 住める町に



大山 末子
(坊 領)

縁あって、大阪から大山町坊領に嫁いで来て、30年経ちました。少しずつ変わっていく大山町ですが、以前から美味しい米、新鮮な野菜、魚介類が食べられることは、今でも変わりません。そして、四季折々に美しい姿

を見せてくれる大山、眼下に広がる日本海、この風景も変わらず自慢ができるものの一つです。現在わが家は、要介護の義母と夫、私の3人家族です。大山町も高齢化率が高くなってきていると聞きますが、わが家の

ように介護を必要とする老人を抱える家庭も、増えてくることと思います。合併した大山町が、子どもたち、若者、高齢者すべての人たちにとって、安心して住める町であって欲しいと思います。

《編集委員会》

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 西山富三郎 |
| 副委員長 | 岡田 聡 |
| 委員 | 遠藤 幸子 |
| 委員 | 吉原美智恵 |
| 委員 | 西尾 寿博 |
| 委員 | 近藤 大介 |